

## クリスマスコンサートで演奏を披露する職員選抜バンド

音楽療法士のよびかけにより『職員バンド』が活動しています。20年余のウエルケアの歴史で過去2回結成され、今回は再々結成。全てが中止になってしまったコロナ禍を、利用者様も職員も楽しもうという趣旨で集まりました。納涼祭でデビュー、クリスマスは各フロアを回ってコンサートを開催しました。メンバーは介護・看護・相談員・副施設長・音楽療法士、様々な職種による老健ならではの「他職種協働」です。それぞれが持てる才能（昔取った杵柄？）を発揮し、さらなるステージに向けて練習を重ねています。  
（介護主任・高田起良）



12/19のコンサートでは様々な楽器でクリスマスの定番曲の演奏が行われ、ご利用者様も楽しい時間を過ごされました

## 認知症カフェ「ミュージックカフェ・アウリンコ」

2018年6月に開設した裕正会ミュージックカフェ・アウリンコ。フィンランド語で太陽を意味するカフェは、地域に開かれた認知症カフェです。認知症カフェとは、国の認知症施策（新オレンジプラン）で後押ししている「認知症（含疑い）の人やその家族、医療やケアの専門職などが気軽に集まり、交流する場所」で、認知症のソーシャルサポートを目指しています。



アウリンコはグループホームSUNに隣接する多目的スペースを利用し、管理栄養士セレクトのケーキバイキング、また味にこだわった本格的なコーヒーを用意しています。コンサートや音楽療法士による歌の時間もあり、裕正会の3つのグループホーム入所者様やご家族を中心に、地域のケアマネージャーなど毎回多くの方が参加しています。

2020年2月からは新型コロナ感染防止対策として集まることに配慮し、ケーキとコーヒーメーカー持参で各グループホームにて訪問カフェを実施。一日も早く以前のように大勢で和気藹々と集い、そして語り合う日が戻ってくることを願っています。（毎月第3土曜日13時～16時開催）（音楽療法士・佐藤実穂）

## 「焼き芋屋さん」現る！



皮もとろける甘い紅はるかでした！！

編集後記

昨年は広報誌の発行を通じて利用者様の笑顔をお届けすることができ、皆様より多くの心温まるお言葉をいただきました。広報委員会一同、感謝の気持ちで今年もより前進、進化したいと思っておりますので宜しくお願い致します。寒さ厳しい折、体調には十分に気をつけて穏やかな新春をお迎えください。

【制作スタッフ】編集長：松波彰誉、編集委員：山口瑠美、高橋裕子、

令和4年1月15日発行

ウエルケア  
広報誌

Vol. 60

# こころ

【発行者】

医療法人社団 裕正会

介護老人保健施設 ウェルケア新吉田

https://www.welcare.or.jp/ TEL:045-590-3855(9:00~17:30)

1面：●施設長より年頭の挨拶 ●年賀状制作作業 ●在宅復帰支援活動レポート  
●師走の恒例行事「クリスマスイベント」 ●クリスマスコンサートで演奏する職員選抜バンド ●認知症カフェ「ミュージックカフェ・アウリンコ」ほか

## 2022年の年頭にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

明けまして  
おめでとう  
ございます。

「コロナ禍」という言葉がすっかり定着してしまいましたが、昨年はコロナ禍の中で東京オリンピックを開催することができました。いろいろ批判もありましたが、開会式の感動から日本人選手の活躍、そして閉会まで、少しの間ですが「コロナ疲れ」を忘れさせてくれました。

世界的にみると、新型コロナウイルスの感染者は地域ごとに増加したり減少したりしています。すぐに治まるとは思えませんが、以前はコロナウイルス感染症が風邪の一つであったように、徐々に許容できる存在になって行くのではないかと思います。それには、全世界的な取り組みが必要だと思います。

ウエルケア新吉田では、感染予防を徹底し、隔週で全職員のPCR検査を実施しています。今年は、「コロナ禍」ではありますが、徐々に「コロナ前」の状態に近づけるよう、段階的に制限を解除していければと思っています。自由に面会ができ、施設で集まって大声で歌が歌える日が遠くないことを祈っています。

（施設長 橋本佳巳）



受付には、手作りのトラと鶴を飾りました。

## 幸多き新年の幕開けを願って年賀状を制作

晩秋の日差しの中、年賀状を作りました。

最初は「書けない、代わりにやって」とおしゃっていた利用者様も、用意しておいたゴム印やシールを使って配置や組み合わせを考えながら楽しく取り組んでいらっしゃいました。

中には丁寧に彩色する方や一筆添える方も！

スタッフもお手伝いしながらおひとりおひとりが素敵な年賀状を完成されました。

2022年は利用者様からご家族へ思いを込めた年賀状のサプライズで幕開けです。

（ケアマネージャー 金子実恵）





## 在宅復帰支援活動レポート

### 【在宅復帰 支援活動】 2階女性介護員Kさんの例

先日ウェルケア新吉田でリハビリ中のご利用者様が、一時的に数日ご自宅に戻られることがありました。

事前に、主介護者である息子さんから「自宅での生活に向けてのケアや介助方法について」いくつかの質問が寄せられました。

書面ではなかなか伝わりにくく、またリハビリを行っているウェルケアの環境とは違うご自宅の為、介護員が自宅訪問し、自宅に併せた介助方法を直接指導させていただくことになりました。

### ☆自宅訪問させていただいた介護士に その時の様子をきいてみました！☆

#### Q:主にケアをされるご家族様はお一人ですか？

息子さん、兄弟でした。お二人ともお母さまの在宅復帰に向けて意欲的で、ウェルケアで使用している福祉用具等もすでにご準備されていました。

自宅復帰前にウェルケアでの様子を説明したところ、実際に介助方法を見ていない為、心配もあったようです。

#### Q:ご自宅に訪問し、まずどうしたのですか？

まず玄関、そこからレクチャー開始でした。玄関には段差があり、昔で言う「あがりかまち」でした。息子さんたちは男性二人がかりで車椅子を持ち上げようとしたので、そこでちょっとしたコツを伝授しました。（※右イラスト参照）

車椅子の後方を踏み上げ、前輪のみ上げてから、後輪を下からグイッと持ち上げるという、女性一人でもあげられる方法を伝えると、それにはびっくりされている様子でした。



#### Q:ご家族はどんな質問をされましたか？

一番の気になっていることは「トイレ介助」でした。ウェルケアで使用している「つかまる棒」（垂直）をトイレ内に設置して頂いていたのですが、掴まって立ってからの動きを心配されていました。

実際にトイレを見て、体格の良い息子さんとお母さまが個室に入ると、ウェルケアでの介助と同じにはいかないことがわかりました。

ご自宅のトイレにあわせて、お母さまに横動き（カニ歩き）の声かけを行いました。

#### Q:実際に訪問してみようでしたか？

お母さまが過ごされる部屋や間取り、トイレなどを実際に介助される方の動きをみて、介助方法を指導させて頂き良かったと思うことが多々ありました。

介助をするご家族の動きだけではなく、お母さまの動作の課題も見えてきました。

ご自宅にあわせた必要動作が見えてきて、介護士である私も勉強になりました。

居室内移動や、トイレ内移動の際に「横歩き」が必要な場合が多く、お母さまはその動きが苦手でした。今後は動きをふまえてケアをしていこうと思いました。

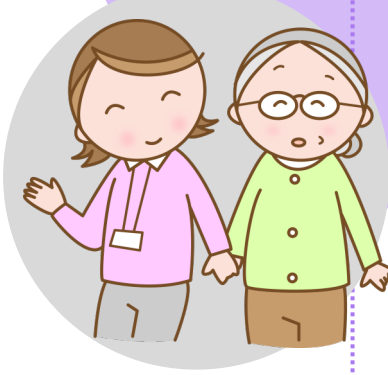
現在日中に、手摺りにつかまって横歩きのリハビリをしていただいています。

ご本人もご自宅での必要な動きと実感されているので意欲的に行っていってらっしゃいます。

ほかの介護員にも伝えることで、リハビリ運動の方向性が見え、私たちの意欲も大いに向上しました。

#### Q:ケアのレクチャー後のご家族の様子は どうでしたか？

お母さまの身体の動きにあわせて実際に家で行うことによって、イメージでしかなかったケ



アの様子が、より一層お分かりいただけたようでした。

ただ単に福祉用具をそろえるだけではなく、お母さまとのコミュニケーションをとっての介助は、見ていてとても感慨深かったです。

息子さんたちも実践的な介助を行う事で、お母さまのご自宅での生活に実感を持たれたようでした。

またちょっとしたポイントを伝えることで、介助が「力技」ではなく「無理をしない介護」になることに気づいてい

ただけたよううれしかったです。

#### Q:訪問したあとはどう思いましたか？

今後もこういったケアが必要だと感じました。「施設」とは違う「ご自宅」「ご家族」にあわせた「動き」「ポイント」をお伝えしていきたいと思いました。

私たち、介護員のスキルアップにもつながるので続けていきたいと思えます。ご自宅に帰られて頑張っているご利用者様の笑顔もとても素敵でした。

（広報委員）



## 師走の恒例行事「クリスマスイベント」

昨年もデイご利用者様を対象としたクリスマス会が12月20日から1週間行われました。

玄関フロアには大きなクリスマスツリーを飾り点灯式が行われ一段と華やかな玄関フロアとなりました。

デイのクリスマス会では、この日の為に練習を重ねた職員によるサクソ演奏がありました。クリスマスソングや上を向いて歩こうなど沢山の曲を披露し、ご利用者様は手拍子や鈴を使って盛り上げてくださいました。

またサンタクロースやトナカイ、ツリーの格好をした職員からクリスマスプレゼントが配られ、楽しい時間を過ごすことが出来ました。（広報委員）

